

# 大都市圏女性ホワイトカラーの WLB における事業所内保育施設の可能性

## ——Clark の Work Family Border (WFB) 理論の枠組において——

株式会社三菱総合研究所 川上千佳

### 【1. 目的】

この報告の目的は、保育所整備に対する企業への期待が高まる中で、育児期女性のワーク・ライフ・バランス (WLB) における事業所内保育施設 (注 1) の可能性の検討にある。特に大都市圏で被雇用者として働く女性は、育児をしながら仕事をする上での時間的・空間的制約が大きく、緩和策として保育所を利用する。保育の時間・空間が独自の事業所内保育施設は、他の保育所とは異なるかたちで制約を軽減し、大都市圏女性ホワイトカラー (注 2) の WLB に正の効果を与える可能性を検証する。

### 【2. 方法】

Clark の Work Family Border (WFB) 理論を分析枠組とし、統計データを用いて実証的に検討した。WFB 理論では、重大な家庭責任を負いながら働く個人は、仕事と家庭という異なる「領域」を毎日行き来する。各領域は「境界」が行動基準の有効範囲を定め、独自の「文化」を有する。仕事と家庭は異なる領域だが、分離して機能せず互いに影響し合い、個人は両領域を統合して境界や範囲を定めることでバランスをとる。境界には時間的・空間的・心理的の3つがあり、境界の強度は浸透性・弾力性・混合性により決まる。浸透性は他領域から要素が入り込む程度、弾力性は領域の要求により境界が伸縮する度合、混合性は浸透性と弾力性が境界で生じた時の混合の度合をいう。本研究では、境界の浸透性と弾力性の概念に着目する。事業所内保育施設の利用は、仕事領域の境界の浸透性、弾力性を高めることで、仕事と家庭のバランスを高めるという仮説を立て検証を試みた。大都市圏に居住し共働きで保育所を利用する女性ホワイトカラーを対象に Web アンケートを実施し、そのデータを分析に用いた (2010 年、分析対象 669 人)。事業所内保育施設、認可保育所、認可外保育施設 (事業所内保育施設を除く) を利用しているかどうか、各領域の境界の浸透性と弾力性に影響する他の要因を統制変数として加えて独立変数とし、仕事領域の境界の浸透性、弾力性、家庭領域の境界の浸透性、弾力性それぞれを従属変数として重回帰分析を行った。

### 【3. 結果】

分析の結果、事業所内保育施設の利用は、仕事領域の境界の浸透性、弾力性ともに有意な正の相関は認められない一方で、認可保育所の利用は家庭領域の境界の浸透性と弾力性に対し、認可外保育施設の利用は家庭領域の境界の浸透性に対し、有意な負の効果を認めることができた。

### 【4. 結論】

この結果は、WFB 理論の枠組において、認可か認可外に関わらず事業所内保育施設以外の保育所の利用は、育児期女性ホワイトカラーにとって家庭の規範力が強い、家庭に重きを置いた生活につながり、WLB に負の効果があると解釈できる。これに対し、事業所内保育施設の利用はそうした傾向は認められない、言い換えれば伝統的性別役割是正や女性活躍推進に資する、WLB に正の効果があることを示唆するであろう。

### 主な文献

Clark Sue, Campbell, 2000, "Work/family border theory: A new theory of work/family balance," Human Relations 53(6):747-70.

謝辞 本研究は、平成 21 年度財団法人日本証券奨学財団研究調査助成金及び 2009 年度全労済協会公募委託による成果である。(注 1) 2015 年 4 月の子ども・子育て支援新制度施行前の保育所の類型にもとづき、認可保育所、事業所内保育施設、その他の認可外保育施設の 3 区分により検討を行う。(注 2) 仕事の時間的・空間的な自己裁量権が認められ、キャリア形成が期待される傾向にあるホワイトカラー職に分析対象を限定する。